2013 年 3 月 23 日（土）13:30～

北海道大学・人文社会科学総合教育研究棟（通称 W 棟）W308 室

プログラムと要旨

邱林燕（北海道大学・院）

中日受身の対照研究

中国語と日本語の受身使用には様々な制限がある。

中国語：我的钱包被小偷偷了。

cf.　我被小偷偷了钱包。

日本語：＊　私の財布は泥棒に盗まれた。

cf.　私は泥棒に財布を盗まれた。

中国語：＊　半夜，我被孩子哭了。

cf.　半夜，我被孩子哭醒了。

日本語：夜中、私は子供に泣かれた。

中日両言語とも自動詞、他動詞の受身が存在する。しかし、中国語の受身と日本語の受身の成立には異なるメカニズムが働いている。本研究は両言語受身の成立を「他動性」と「受影性」に基づき検討し、両言語受身の成立メカニズムを究明することを目的とする。

羅沢宇（北海道大学・院）

母语干扰的逆向过程——日语学习者的母语汉语变化

母语干扰是二语习得研究中比较热门的一个领域，大家在学习新语言的过程中也常深有体会。但它的逆向过程——新语言对母语所造成的影响，却始终没有得到太多研究者的关注，连作为当事人本人的外语学习者，通常也没有意识到这一点。

本次报告首先简单地介绍该领域为数不多的先行研究，然后引入包括鲁迅作品等中出现的词汇、语法、篇章方面的实例，以及笔者在中国所做的汉语用法正误调查，对该现象进行一个初步的分析，并思考该现象的成因和机制。同时，也会讨论一下汉语在受日语影响过程中的特殊性。

最后，报告会总结目前已知和未解决的问题，并对本研究有可能对目前已有的翻译理论、习得指导、辞书编辑等所造成的影响做一个概观。

根岸美聡（北海道大学・院）

浙江臨海方言における“拨”の用法

本発表では、臨海方言で用いられる“拨”という機能語について、発表者の記述したデータを基に、その用法を分析し、意味拡張のプロセスについても推定を試みる。具体的には、臨海方言の“拨”は介詞として①授与目標②受益者③執行使役文（処置式）の被使役者④使役文の被使役者を導く用法を担うが、これらの用法に見られる意味上の、あるいは形式上の制限を整理し、さらに〈与える〉等の意味を表す動詞としての用法からの意味拡張のプロセスについて推定を試み

る。また、普通話の“给”との違いや、臨海方言以外の呉語で類似の機能を有する“拨”およびその他の介詞との違いについても言及する。

熊娟（日本学術振興会外国人特別研究員・北海道大学）

《佛說安宅神咒經》整理及相關考查

漢文佛典《佛說安宅神咒經》除了刻印本、敦煌寫本，目前還發現有日本金剛寺古寫本，比較發現刻印本、敦煌寫本、金剛寺寫本應該看作三種異本。本文依據國際佛教學大學院大學提供的圖像資料，對金剛寺寫經進行校錄整理。然後圍繞該經進行如下考查：第一、從經文中心內容以及中國特有文化語詞的使用判定該經的性質是中國人編撰的疑偽經。第二、從經典形態推測金剛寺寫本代表的異本是最初形態，敦煌寫本、刻印本代表的異本則是在金剛寺寫本的基礎上增刪修訂而成。第三、從金剛寺寫本中“非禍”“俗身”“某甲”“六道”“四生”等語言現象考訂該經的產生可能不會早於東晉。第四、對敦煌寫本中“慎護”一詞從梵語來源、詞義、結構關係詳加討論。

戸内俊介（日本学術振興会特別研究員 PD・東京大学）

西周時代における非現実モダリティマーカーの「其」

戸内俊介「上古中国語における非現実モダリティマーカーの“其”」（日本中国語学会『中国語学』258 号, 2011 年 10 月）で, 筆者は春秋戦国時代の副詞「其」を取り上げ, これが非現実(irrealis)モダリティマーカーであるということを論証した。本発表では, さらに古い時代である西周期の資料, 例えば西周金文や西周甲骨文の出土資料, 及び『尚書』『毛詩』といった伝世文献を材料に, そこに見える副詞「其」について取り上げる。結論としては, 西周期の副詞「其」もやはり, irrealis という視点から矛盾なく解釈できるが, その意味機能は春秋戦国時代のものとは幾分異なったところがあるということを論じる。

アクセス:

会場の W 棟は文学部棟に隣接した 6 階建ての棟です。文学部棟までのアクセスは下記 URL を参照。

http://www.let.hokudai.ac.jp/let-common/access.php